

# 2019年3月期 決算説明会

2019年6月14日



**イメージ情報開発株式会社**

東証JASDAQ：証券コード 3803

## I グループ概要

II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加

III 過年度決算訂正の概要

IV 2019年3月期 決算概要

V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分

VI 新体制への移行

VII 中期経営計画（計数計画）

VIII 今後の中期戦略



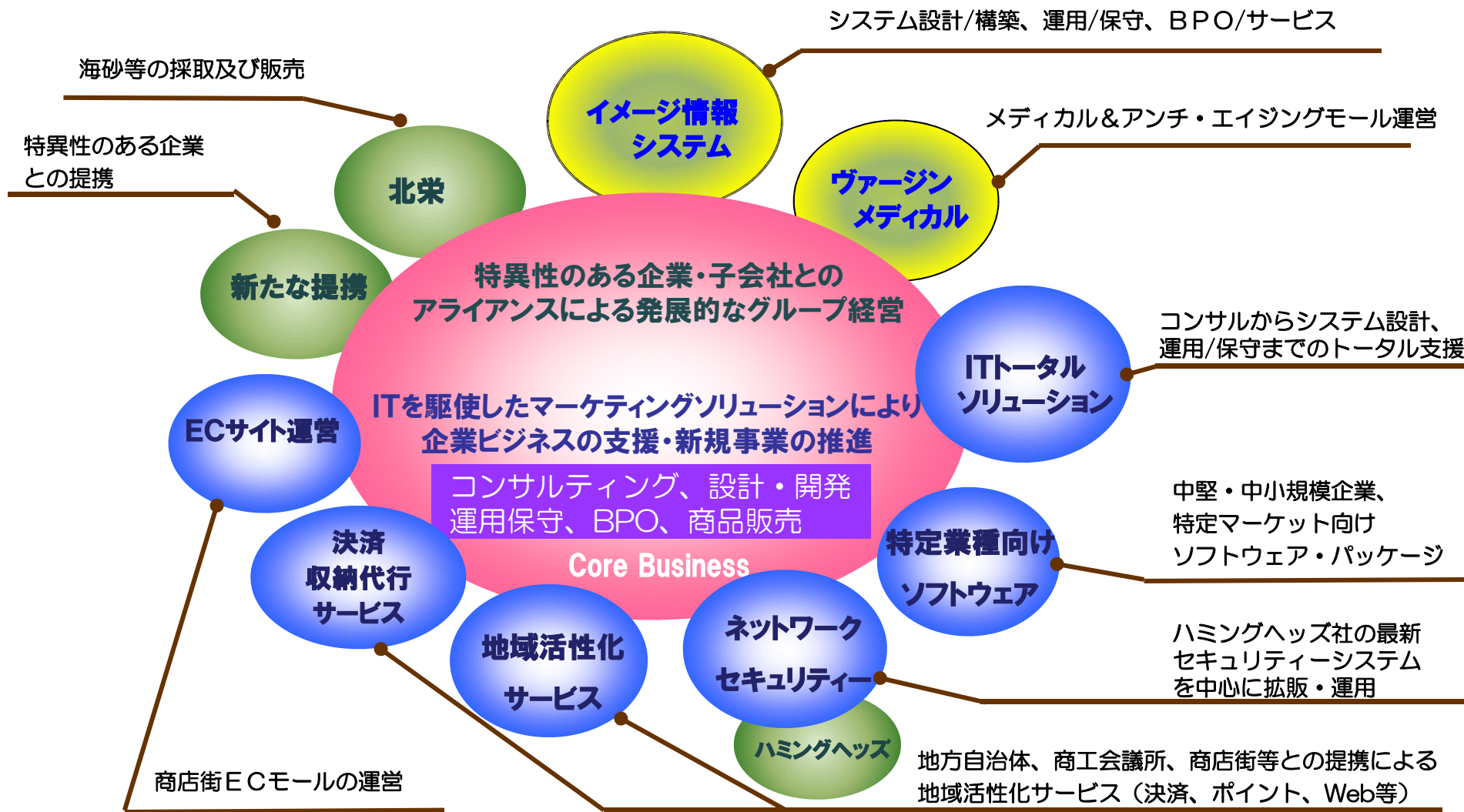
# イメージ情報開発株式会社 会社概要

【設立】	1975年（昭和50年）10月
【代表者】	代表取締役社長 代永 衛
【資本金】	5億9,731万円
【事業内容】	情報システムの設計/開発、運用/保守、BPO/サービス
【本社所在地】	東京都千代田区神田猿樂町 2-4-11 犬塚ビル
【子会社】	イメージ情報システム株式会社、株式会社ヴァージンメディカル、
【沿革】	1975年10月 会社設立 1976年 4 月 ITコンピュータとイメージデータを複合処理する事業を開始 1984年 4 月 システムインテグレーション事業に進出 2004年 4 月 セキュリティサービス販売を開始 2006年 4 月 プライバシーマーク認定取得（イメージ情報システムに移管） 2006年 4 月 大阪証券取引所（現東京証券取引所）JASDAQに株式上場 2009年12月 イクオス株式会社（現株式会社ヴァージンメディカル）設立 連結子会社化 2011年 7 月 本社事務所を東京都千代田区神田猿樂町に移転 2013年10月 株式を200分割 2017年10月 新設会社分割によりイメージ情報システム株式会社を新設 2017年10月 株式取得により株式会社アイデポルテを連結子会社化 2018年11月 株式会社アイデポルテを株式譲渡により連結除外 2018年 3 月 第1回新株予約権を発行 2018年11月 第1回新株予約権の行使完了



# イメージ情報開発グループについて

「システム設計・構築を基盤にマーケティング機能を付加した総合サービスによる企業ビジネスの支援」、  
「自社製品の販売・サービス提供」、「特異性のある、子会社の育成、他企業とのシナジー」で構成します。



- I グループ概要
- II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加
- III 過年度決算訂正の概要
- IV 2019年3月期 決算概要
- V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- V 新体制への移行
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略



## 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加

当社は、2018年3月に第1回新株予約権3,500個を発行し、2018年8月に500個、同年11月に3,000個が行使され、資本金及び資本準備金が下記のとおり増加しました。

【単位：千円】

2018年3月末現在		増加額	2019年3月末現在	
資本金	467,050		130,267	597,317
資本準備金	4,158	130,267	134,426	

- I グループ概要
- II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加
- III 過年度決算訂正の概要
- IV 2019年3月期 決算概要
- V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- V 新体制への移行
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略



当社は、不適切な会計処理の疑義の指摘を外部から受け、2018年12月に第三者委員会を設置し、その調査報告書等を尊重し、2019年3月8日に訂正有価証券報告書等を提出しました。訂正の概要は以下のとおりです。

- ◆ 当社は、重要な提携先である北栄社の債権に対し、2017年3月期及び2018年3月期に貸倒引当金を計上していましたが、これを2016年3月期第2四半期末日現在の債権残高の25%、2016年3月期末日現在の同残高の50%相当額まで積み増しし、2018年3月期第2四半期に同残高全額まで積み増しする処理へ訂正いたしました。
- ◆ 北栄社ののれん相当額の償却期間を5年から10年に変更しましたがこれを5年に遡って訂正しました。
- ◆ 2014年3月期に売上を計上していたコンサルティング売上2件について、1件は2014年3月期と2015年3月期に分けて計上する訂正を行い、他の1件の売上については、入金分を破産更生債権への入金に振替えました。

詳細は、当社ホームページ掲載の

2019年2月12日 第三者委員会の調査報告書受領と今後の対応に関するお知らせ

2019年3月8日 過年度の有価証券報告書等の訂正報告書の提出及び過年度の決算短信等の訂正に関するお知らせ をご参照ください。



- ①取締役会におけるコーポレート・ガバナンス体制の確立
  - イ. 取締役会の体制整備
  - ロ. 社外取締役の選任
  - ハ. 取締役会運営方法の改善
  - ニ. 代表取締役の変更
- ②役員のコンプライアンスの徹底
- ③コンプライアンス委員会の実効性確保
- ④管理部門の体制強化
  - イ. 内部監査室長の採用
  - ロ. 弁護士事務所との顧問契約の再開
  - ハ. 会計基準等に関する研修の実施
- ⑤資本出資時の社内規程の新設
- ⑥稟議決裁制度の改定
- ⑦会計監査人の交代

詳細は、当社ホームページ掲載の

2019年5月28日 東京証券取引所への「改善報告書」の提出に関するお知らせをご参照ください。

- I グループ概要
- II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加
- III 過年度決算訂正の概要
- IV 2019年3月期 決算概要
- V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- V 新体制への移行
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略



# バランスシート【連結】

【単位：百万円】

	2018年3月期 年度末実績	2019年3月期 年度末実績	対前期比	
			増減	増減率 (%)
資産合計	387	531	144	37.3
流動資産	239	442	203	85.1
固定資産	148	88	△59	△40.0
負債合計	313	297	△16	△5.2
流動負債	156	134	△22	△14.3
固定負債	157	163	5	3.8
純資産合計	73	234	160	219.2
負債純資産合計	387	531	144	37.3

- ✓ 流動資産：現金及び預金 220百万円増
- ✓ 固定資産：投資有価証券 21百万円減、アイデポルテの「のれん」16百万円減  
長期貸付金 12百万円減
- ✓ 流動負債：短期借入金 10百万円減、1年内返済長期借入金23百万円減
- ✓ 固定負債：退職給付に係る負債 14百万円増、長期借入金 17百万円減
- ✓ 純資産：当期純損失 156百万円、資本金 130百万円増、資本準備金130百万円増



## 損益計算書【連結】

【単位：百万円】

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	対前期比	
			増減	増減率 (%)
売上高	815	702	△113	△13.9
売上原価	683	598	△84	△12.4
売上総利益	131	103	△28	△21.7
販売管理費	127	150	24	19.3
営業利益	5	△47	△52	—
経常利益	6	△56	△63	—
親会社株主に帰属 する当期純損失	△252	△156	95	—

- ✓ 売上高：システム設計/構築において2018年11月にアイデポルテを連結除外した影響で前期比25.5%減
- ✓ 利益：特別損失として 過年度の決算訂正に係る特別調査費用37百万円、アイデポルテの関係会社整理損17百万円、投資有価証券評価損22百万円を計上したことにより親会社株主に帰属する当期純損失が156百万円となる



# 業績ハイライト

## ■ 当期連結業績

◎ 売上高 702百万円(前期:815百万円)

(単位: 百万円)

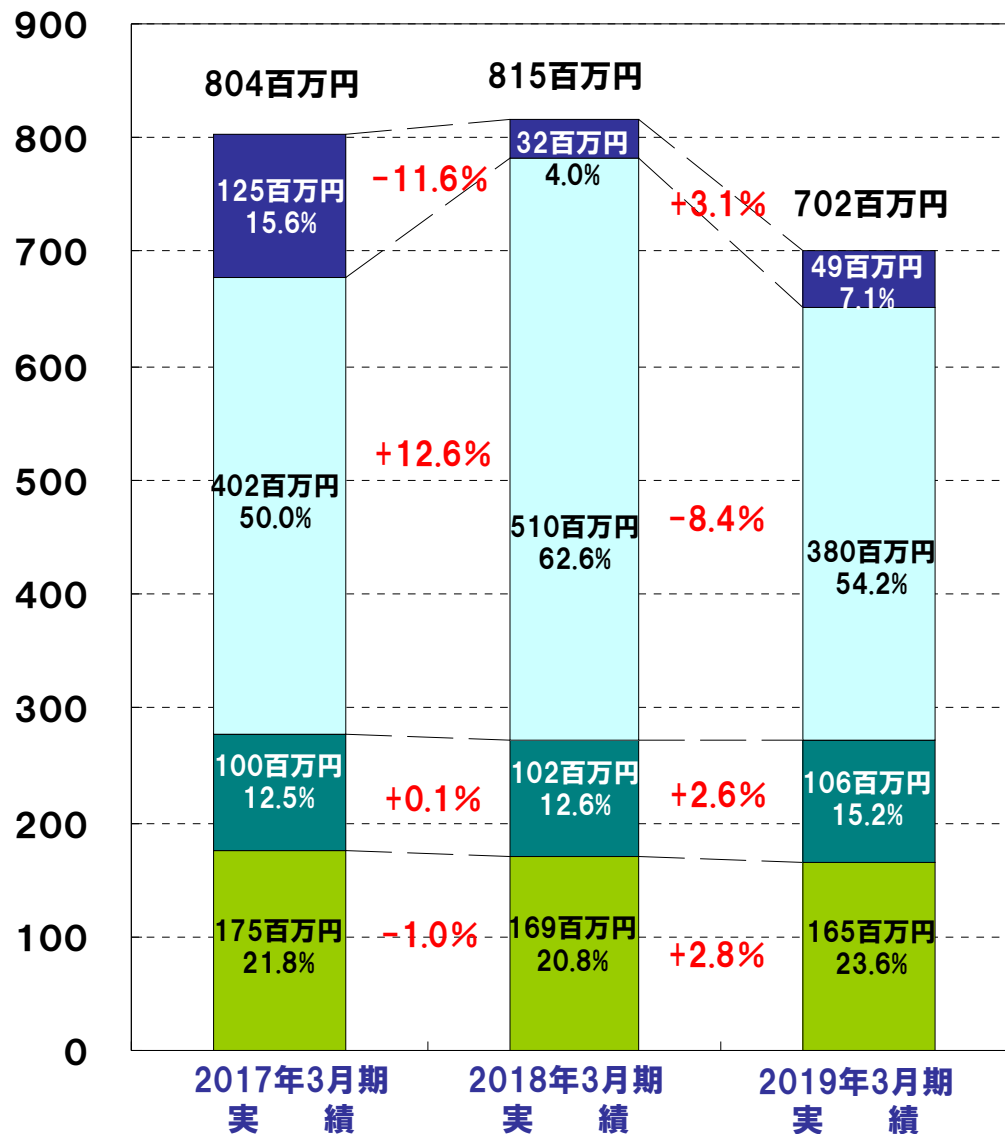
	コンサルティング /設計/構築	運用/保守	商品販売	BPO/ サービス	合計
2018年3月期	510	102	32	169	815
2019年3月期	380	106	49	165	702
増減率	△25.5%	3.9%	51.6%	△2.3%	△13.9%

◎ **コンサルティング/設計/構築** アイデポルテ連結除外で25.5%減  
**運用/保守** 継続受注とシステム構築案件の保守契約獲得で3.9%増  
**商品販売** ヴァージンメディカルの化粧品販売の貢献で51.6%増  
**BPO/サービス** 継続的な取引も2.3%減



# 売上構成【連結】

【単位:百万円】



## 商品販売

2018年3月期は前年の大型サーバ入替受注が終了し減少、2019年3月期はヴァージンメディカルの化粧品販売により増加

## コンサルティング/設計/構築

2018年3月期はアイデポルテの連結子会社により増加するも、2018年11月に連結除外により2019年3月期は減少

## 運用/保守

堅調に増加継続会社

## BPO/サービス

商工会議所ならびに地域商店街等向けクレジット決済サービスやや減少



## キャッシュフロー【連結】

【単位：百万円】

	2018年3月期 実績	2019年3月期 実績	対前期比 増減
営業活動によるキャッシュフロー	17	△52	△69
投資活動によるキャッシュフロー	△56	17	73
財務活動によるキャッシュフロー	0	274	273
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△38	240	278
現金及び現金同等物の期末残高	74	314	240

- ✓ 営業活動CF：税金等調整前当期純損失 △143百万円  
法人税等の支払額 19百万円
- ✓ 投資活動CF：定期預金の減少額 △20百万円
- ✓ 財務活動CF：新株予約権の行使による株式の  
発行による収入 258百万円  
新株予約権の行使による自己株式  
の処分による収入 43百万円

- I グループ概要
- II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加
- III 過年度決算訂正の概要
- IV 2019年3月期 決算概要
- V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- V 新体制への移行
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略



# 資本金の額の減少及び剰余金の処分

第44期純損失 156,452千円



利益剰余金  $\Delta$ 479,875千円

早期復配体制への移行

資本政策の柔軟性及び機能性の確保

単体の純資産の動き (2019年6月26日株主総会承認後)

【単位：千円】

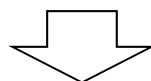
振替前		変動額	振替後	
資本金	597,317	$\Delta$ 296,317		301,000
資本剰余金	135,498	$\Delta$ 135,498		0
資本準備金	134,426	$\Delta$ 134,426		0
その他資本剰余金	1,072	$\Delta$ 1,072		0
利益剰余金	$\Delta$ 479,875	431,816		$\Delta$ 48,058
利益準備金	2,000	—		2,000
その他利益剰余金	$\Delta$ 481,875	431,816		$\Delta$ 50,058
純資産	198,457	—		198,457

- I グループ概要
- II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加
- III 過年度決算訂正の概要
- IV 2019年3月期 決算概要
- V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- V 新体制への移行**
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略



## 当社の経営理念

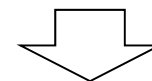
変革を求める企業・団体に対し、先進的ITを駆使した独創的サービスや機能の提供を通じ社会に貢献する



**最新テクノロジー分野への参入**

## 再発防止策

第三者委員会の調査報告書を尊重し、かつ不適切な会計処理の原因分析を踏まえ、新体制に移行し再発防止を徹底する



**公正中立な社外取締役の就任**

## 具体的な内容

(2019年6月26日株主総会承認後)

取締役を3名体制から5名体制に増員

経験豊富な社外取締役2名を選任

内部監査室長を外部から登用



## 取締役新体制

代表取締役	代永	拓史
取締役	佐藤	将夫
取締役	代永	衛
社外取締役	小山	脩
社外取締役	矢治	正司

- I グループ概要
- II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加
- III 過年度決算訂正の概要
- IV 2019年3月期 決算概要
- V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- V 新体制への移行
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略

# 2020年3月期の通期業績予想【連結】



(単位：百万円)

	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 通期予想			
		上期	下期	通期	前年比(%)
売上高	702	390	384	774	110.3
営業利益	△47	△12	11	△1	—
経常利益	△56	△12	11	△1	—
親会社株主に帰属 する当期純利益	△156	36	△2	34	—

- 受注案件受入増に伴う社内人材の増強と外部人材リソースの活用
- 売上原価抑制への継続取組
- 新規事業及びM&Aは考慮せず



# 2020年3月期の計画(セグメント別状況)

## コンサルティング/設計/構築

- オープンソースソフトウェアを活用した新ビジネスの拡大
- 新規取引先の拡充と新規案件の受注拡大
- 外部人材リソースを活用した受注規模拡大
- パッケージ商品のカスタマイズ受注の推進
- 売上原価率上昇の歯止め

## 運用/保守

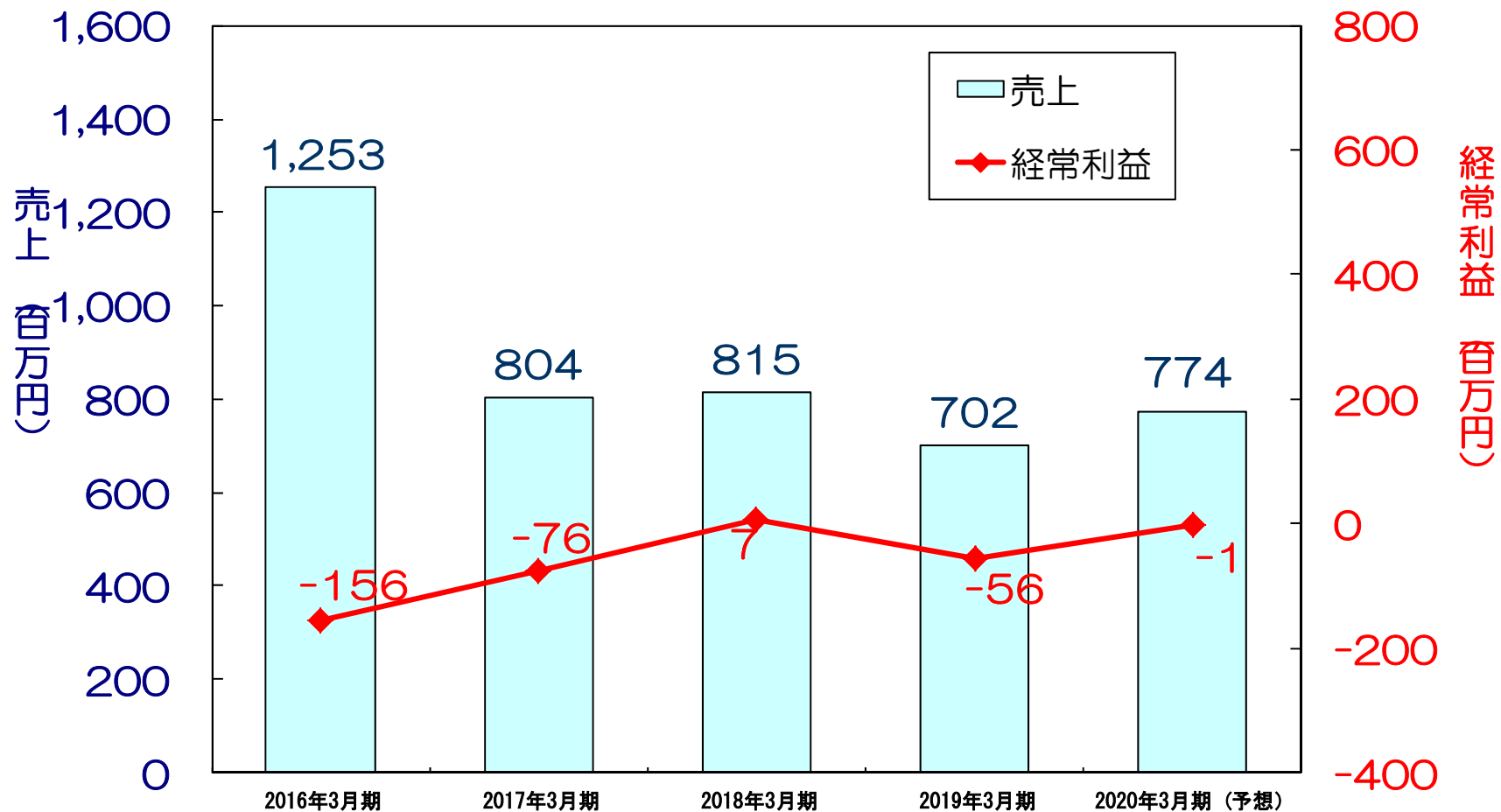
- システム構築後の保守業務受託
- 自社開発ソフトの運用、保守

## 商品販売

- セキュリティソフトライセンス販売の強化  
(自治体向営業強化/販売代理店拡大)

## BPO/サービス

- 決済方法多様化の開発
- 決済サービスを活用した新たな受注先の開拓





当社は、株式会社北栄(以下「北栄社」という。)に対し、2019年3月期連結会計年度の末日において、399,375千円の貸付けを行っております。また、過年度に計上しておりました同社への売掛金等の98,679円が長期未収入金となっており、これらの全額を貸倒引当金として特別損失に計上しております。

今後の業績予想につきましては、北栄社の業績回復による、新たに発生するコンサルティング売上と貸倒引当金計上した長期貸付金及び長期未収入金の回収状況が著しく影響いたします。

北栄社は、沖縄県において海砂の採取、販売を行っておりますが、大規模な埋立工事が予定されていることから、船舶の増設等により同社の業績が大幅に改善される見込みとなっております。

しかしながら、その開始時期や北栄社が担う海砂供給量など未確定な事項も多く、現時点でこれを数値化してお示しすることが困難な状況となっております。

今後、これらの状況が明らかになった際には、その内容を速やかにお知らせするとともに、2020年3月期業績予想の修正並びに2021年3月期及び2022年3月期の実績目標をお知らせいたします。

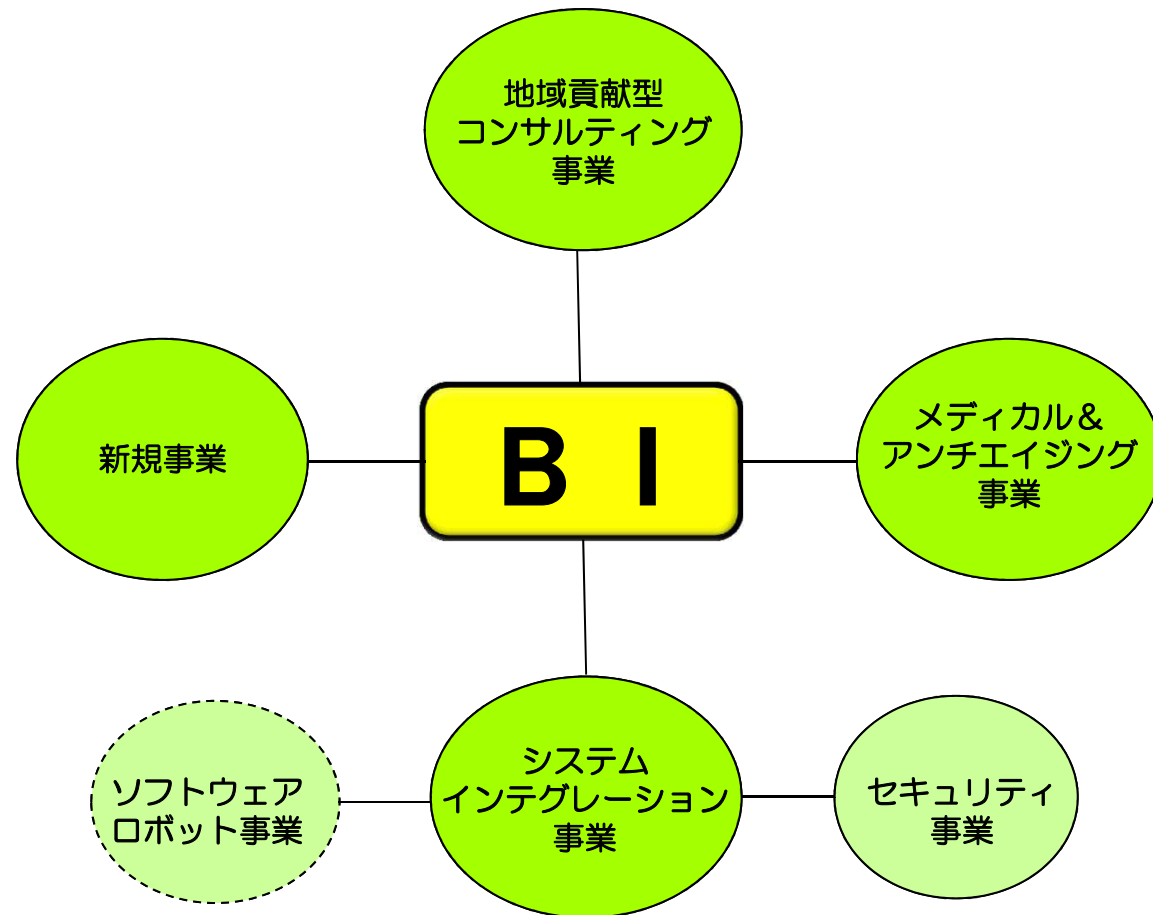


- I グループ概要
- II 第1回新株予約権の行使による資本金等の増加
- III 過年度決算訂正の概要
- IV 2019年3月期 決算概要
- V 資本準備金の額の減少及び剰余金の処分
- V 新体制への移行
- VI 中期経営計画（計数計画）
- VII 今後の中期戦略

## 「システムインテグレーター」から「ビジネスインテグレーター」へ

ビジネスインテグレーションとは、革新著しいITを駆使した新機能やサービスを統合し、新しいビジネスモデルを創出することを意味します。

私たちは、これからの未来に向けて、独創的で高付加価値なサービス、製品を実現するため、様々なビジネスプラットフォームの構築に着手しています。



## 成長ビジネスへの積極転換

1. コアビジネスの規模・機能の大幅拡充(システムインテグレーション事業)

2. 地域貢献型コンサル事業の長期継続的成長(沖縄北栄等)

3. 先行投資事業の拡大・収益化(メディカル&アンチエイジング事業)

ヴァージンメディカル社は、医療、健康、癒しのサービス事業者が集結する複合モールを東京・銀座で展開しています。

## 新規分野へのチャレンジ

1. IoT関連事業

2. ソフトウェア・ロボット事業

3. 異業種企業との提携による新規事業



本日は、ありがとうございました。

## <お問い合わせ先>

担当窓口： イメージ情報開発株式会社

常務取締役 経営管理室長 佐藤 将夫

TEL : 03 - 5217 - 7811

FAX : 03 - 5217 - 7816

URL : <http://www.image-inf.co.jp/>

本資料には、将来にわたる見通しに関する記述が含まれております。これらは現時点での予測であり、実際の業績は、今後の経済動向やその他の社会・政治情勢など様々なリスクや不確定要素により、見通しとは異なる結果となる可能性があることをご了承ください。